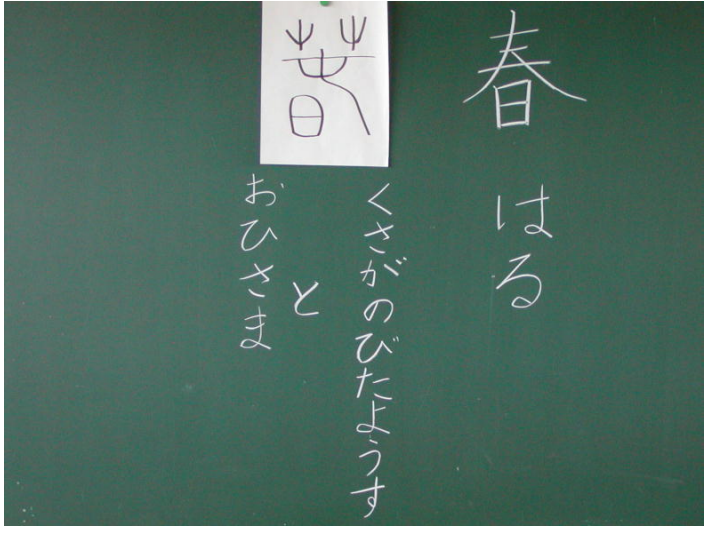


2 表意文字として漢字に対する興味や関心を高める指導について (2年)

	<p style="text-align: right;">【板書事項】</p> 
<p>4 空書きをし、書き取り練習をする。 「春は九画です。空書きをします。指を出しましょう(空書き)。ノートに練習しましょう。」</p>	<p>【指導の流れ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 漢字を板書し、読み方を教える。 「これ(春)は『はる』と読みます。」 2 会意文字であることを伝え、基となった漢字を想像させる。 「春は、日と上の部分からできた漢字です。日はおひさまを表しています。上の部分はどのようなことを表していると思いますか。」 C「おひさまの上の雲です。」 C「木のある山と川です。」 C「日よけの傘です。」 3 字の書き方を教える。 「上の部分は、前はこういう形をしていました(掲示資料提示)。これは草が伸びて育っている様子を表しています。暖かくなって伸びた草と、おひさまを表した漢字です。」
<p>4 「一、二…」と一画ごとに数を数えながら空書きさせる。 ノートに練習させる際は、「春休み」「早春」など、熟語で練習させる。</p>	<p>【留意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 筆順を意識させるために、ゆつくりと大きく書く。 2 会意文字は、漢字の基になった漢字を考えさせる。二つ同時に考えさせるのが難しい場合は、一つを教え残りの部分を考えさせる。その際、教えた部分と関係があることを児童に意識させる。 児童には自由に想像させる。一人一人の考えを認める。それぞれがどのような理由で基になった漢字を考えているかを共有させ、二つの漢字の意味のつながりを意識させる。 3 児童が発想したものを、正解・不正解といった観点でとらえさせないようにする。それぞれの発想が漢字の意味と関連しているかという点から評価する。 4 「一、二…」と一画ごとに数を数えながら空書きさせる。